

大学名	東京大学		
University	The University of Tokyo		
外国人研究者	李 永晶		
Foreign Researcher	LI YOUNGJING		
受入研究者	佐藤健二	職名	教授
Research Advisor	SATO KENJI	Position	Professor
受入学部/研究科	大学院人文社会系研究科		
Faculty/Department	Graduate School of Humanities and Sociology		

<外国人研究者プロフィール/Profile>

国籍	中国
Nationality	China
所属機関	華東師範大学
Affiliation	East China Normal University
現在の職名	准教授
Position	Associate Professor
研究期間	2014. 07. 07~2014. 10. 04
Period of Stay	2014.07.07~2014.10.04
専攻分野	社会学、中国現代社会研究
Major Field	Sociology, Research on Contemporary China Society



研究室にて / At Prof. Sato's Office

<外国人研究者からの報告/Foreign Researcher Report>

①研究課題 / Theme of Research

近代日本の世界認識——1860年代から1960年代まで

②研究概要 / Outline of Research

近年、東アジア地域においてある種のナショナリズムの風潮が生じつつある。この現象についてこれまで様々分析が行われてきたが、多くの分析が国民国家の枠組みを自明視しているため、未来志向の分析や提案を行うことができなかった。この現状に対して、私はこの研究で、新しい世界主義の立場に立ち、日本の近代化を東アジア世界と西洋世界との相互作用の視点から捉え直した。具体的にこれまでの政治思想史の中でよく取り扱われた思想史上の事件、例えば水戸学、アジア主義、京都学派の世界史論などを素材に日本の知識人たちが如何に世界史の変動を文明論の視点で捉えていたか、また新の普遍主義の文明を求めたかを分析した。またこの研究について私は十数人の日本の研究者から有意義なコメントやアドバイスを得た。

③研究成果 / Results of Research

具体的に二本の論文を完成した。一つは、以上の研究概要で述べたように、近代日本の知識人たちが国民国家という歴史的な枠組みに拘束されつつ、それを乗り越えようとする様々な認識、思想、政策提言などを数多く提起していた。これらの思想や論点には、今日のグローバル化や地域統合のトレンドの中で依然として思想的な喚起力を持つ要素が数多くあることを明らかにした。日本と中国との関係についても新しい視点を提起してみた。そしてこの研究のある種の副産物として、近代東アジアの秩序を、儒教思想の視点からの再検討も行って、もう一つの論考をまとめるようになった。

④今後の計画 / Further Research Plan

以上の論文はこれから中国や日本で報告する予定があるが、十分な質疑や討論を経て、その中身をさらに充実したいと考えている。また、これらの研究に基づいて、東アジア社会の秩序の安定や協力の枠組みの構築などに対して、積極的に知的・思想的な貢献をしようと考えている。

<受入研究者からの報告/Research Advisor Report>

①研究課題 / Theme of Research

「近代日本の「世界」認識: 1860年代から1960年代まで」を主題に、近現代中国と「世界」との関係をとらえなおすため、近代日本の「世界」経験とそれを受け止めた思想や社会のありようを分析すること。

②研究概要 / Outline of Research

李君の関心は、激動している現代中国社会を「世界」のなかに自覚的に位置づける、その枠組みをつくりあげることにある。とりわけ国民国家の枠組みで論じられてきたために、十分な対応力をもたなかった点を反省し、世界システムのなかでの特異性を意識しつつ、新たな可能性をさぐるという点にある。そこで参照点となるのが、近代日本の経験であり、幕末期の水戸学や、近代におけるアジア主義、さらには「近代の超克」論、戦後民主主義とマルクス主義等々の社会思想の限界と可能性について、あらためて日本の研究水準に触れてまなぶことにある。中国社会の「ポスト全体主義」のさまざまな選択を考えるうえで、近代日本の近代化のなかであらわれてきた諸思潮を再検討することが必要だと考えている。

③研究成果 / Results of Research

滞在中たいへんに精力的に関連する専門の研究者をたずね、その研究に触れるとともに、議論を通じて多くの問題についての視点や資料を得たと聞いている。また東京大学大学院人文社会系研究科の教員を中心とした研究会で、調査研究の中間報告をおこない、現代中国社会がかかえる問題を整理して紹介するとともに、近代日本の経験に学べると考える複数の論点を提起し、そこに集まった歴史社会学、人口論、生活史、戦争研究、文化論等々の研究者と、議論している。その他、今回の滞在での調査研究を、すでに論文にまとめて中国で発表する用意があるなど、予想以上の研究成果をあげている。中国国内には得ることのできない、数多くの刺激を、研究者として得て活かしていると考えている。

④今後の計画 / Further Research Plan

ひきつづき中国社会の内側からはアクセスしにくい情報や、現代的な思想の潮流については、できるかぎり研究交流をつうじて知らせてゆきたいと思うし、外側からは見えにくい現代中国社会の問題点やエネルギーについては、現職の大学教員・研究者としての立場から、国際的に発信していくことを希望し、そのための援助をしたいとも考えている。なによりも李君の日本語を解する力はたいへん優れており、とりわけ読解力は一級のものであるので、日本での新たな研究成果を中国にも紹介し、積極的な研究上の交流を生みだしてくれることを期待している。



研究室にて / At Prof. Sato's Office